

(参考2)

## 「北海道・豆トークショー2022」の実施概要

### 1 主 催

公益社団法人北海道農産基金協会、北海道豆類振興会の共催により開催する。

### 2 後 援 (未定)

次の関係機関・団体に対し、当協会から依頼する。

農林水産省北海道農政事務所、北海道、開催場所の市町村、  
北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会、  
北海道穀物商協同組合連合会

### 3 日 程

「豆の日」(10月13日)及び「豆月間」(10月)の協賛行事であることから、開催候補日は、令和4年10月上中旬の土曜日又は日曜日の午後(13:00~16:00頃)とする。

なお、会場の確保が著しく困難な場合は、他曜日の午後開催も可とする。

### 4 地域・会場

北海道内の主要な生産地や消費地域における消費者に対する消費啓発活動であることから、令和4年度は旭川市内での開催とする。

行事の開催場所は、新型コロナウイルス感染予防対策が実施された会場で、100名から200名程度の人員を収容でき、かつ、講演と料理等の試食ができる会場又はテイクアウトが可能な施設とする。

### 5 対 象

可能な限り、今後の豆類消費の主体となると想定される者又は啓発効果の高い者を対象として設定する。また、参加者の属性の広がり及び当日の参加者の出席率を確保するため、ペアでの招待を基本とする。

人数は全体で100~200名程度(主催・後援関係者等若干名を含む。)とする。

対象者への告知は、告知用チラシの配置(公共の場所や食に関心を有する機関・団体の事務室等)や不特定多数の者に対する広報(フリーペーパーや新聞への掲載等)、インターネットによる広報等により行う。

### 6 テーマ

見直そう!豆の力と豆料理

## 7 トークショーの概要

トークショーの出演者は、豆の専門家（講師）、レシピ考案者等（料理等提供者を含む。以下同じ。）、司会者であるが、このうち豆の専門家は当協会が依頼し、レシピ考案者等及び司会者の選定は受託者が行う。

トークショーは、次のような進行を予定している。

(1) <開 会> 開会挨拶 公益社団法人北海道農産基金協会

(2) <第1部> 豆トークショー

豆類に関する専門家（講師）から豆類の機能性や豆のある食生活の重要性等について聞く。

(3) <休 憩>

(4) <第2部> 試食会

レシピ考案者等から試食品の食材の概要、試食品の調理方法、家庭で作る場合の注意点等について聞く。

(5) <閉 会> 閉会挨拶 北海道豆類振興会

(6) <アンケート記入・回収>

閉会后、アンケートに記入する時間を設けた上で、その提出との交換で豆類の試供品を参加者に提供する。

## 8 設営・運営のイメージ

(1) 聴衆の配席は机つきの学校方式とする。参加者間の距離を十分確保した配席とする。

受付や会場内に「豆の日」の広報用ポスター等を掲示することができる。

(2) 会場の一部に、主催者、後援機関・団体、報道機関の関係者席を設ける。

(3) 第1部では、豆類の機能性や豆のある食生活の重要性などを講師が説明（1時間程度）した後、疑問点等についての質疑を講師と司会者との応答による形式で行うとともに、聴衆からの質問にも対応する。

(4) 第2部では、数種類の豆料理等を聴衆に提供し、レシピ考案者等が参加者に試食してもらいながら、その作り方、家庭での調理のコツ等について画像を利用しながら分かりやすく解説する。疑問点等については、レシピ考案者等と司会者との応答による形式で行うとともに、聴衆からの質問にも対応する。

また、試食品については可能な限り家庭でも作ることのできる料理等とするため、半加工品を積極的に利用するほか、プログラムにそのレシピを掲載する。

(5) (4)の試食は配膳形式を想定しているが、配膳による試食が困難な場合は、立食による対応を可とする。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、テイクアウトでの提供も対応できる体制とする。ただし、その具体的な実施方法については、当協会と受託者との間で調整をする。